

第二次世界大戦終結80周年企画 アニメーション映画『うしろの正面だあれ』上映&トーク

上映作品:『うしろの正面だあれ』(1991年)

トーク登壇者:有原誠治(アニメーション映画監督)、アルト・ヨアヒム(新潟大学助教)、木村智哉(開志専門職大学准教授)



開催日時 **2025.11/12** ㊦17:00~19:30(16:45開場)

会場:開志専門職大学 古町ルフルキャンパス

<https://kaishi-pu.ac.jp/department/anime/access/>

地図情報は
こちら→



〒951-8063 新潟市中央区古町通7番町1010番 古町ルフル11階
F209教室(古町ルフル奥のエレベーターで11階までお越しいただけます)
※ご入場・鑑賞は一切無料ですのでお気軽にご来場ください。

■お問い合わせ先

〒951-8063 新潟市中央区古町通7番町1010番 古町ルフル10・11階

開志専門職大学 新潟視覚芸術研究所 木村智哉

E-mail: kimura.tomoya@kaishi-pu.ac.jp

TEL: 025-378-1694 (開志専門職大学 アニメ・マンガ学部 合同研究室)

主催: 新潟視覚芸術研究所(RIVNA)



新潟
視覚芸術
研究所
Research Institute of
Visual and Narrative Art,
NIIGATA



開志専門職大学
KAISHI PROFESSIONAL UNIVERSITY

第二次世界大戦が終結してから80年が経過しましたが、世界は未だ不安定な情勢が続いています。今回上映する『うしろの正面だあれ』は、作家・海老名香葉子氏の戦争体験を描いた自伝的小説をアニメーション映画化した作品です。監督は、戦時下の日本を描いた作品を数多く手がけられてきた有原誠治氏、また画面構成は若き日の片渕須直氏(『この世界の片隅に』監督)と、アニメーション映画の観点からも興味深いスタッフが関わっています。当日は本作の上映に加え、有原誠治監督ご本人と、新潟大学助教として日本のアニメーション作品における第二次世界大戦の表象と集合的記憶について研究されているアルト・ヨアヒム氏をお招きし、アニメーションを通じた戦争表現について、様々な観点から考えてみたいと思います。皆さまのご来場をお待ちしております。



■上映作品

『うしろの正面だあれ』(1991年公開)

原作:海老名香葉子

監督・絵コンテ:有原誠治

脚本:今泉俊昭、有原誠治

画面構成:片渕須直

アニメーション制作:虫プロダクション株式会社

トーク登壇者

有原誠治

アニメーション映画監督。『うしろの正面だあれ』のほか、『火の雨がふる』(1988年)、『ライオンツリーのうた』(1994年)、『えっちゃんのせんそう』(2002年)、『NAGASAKI 1945 アンゼラスの鐘』(2005年)と、戦時下の日本を描いたアニメーション作品を数多く監督している。またドキュメンタリーに、『原爆症認定集団訴訟の記録おりづる』(2013年)、『国民平和進行の記録 一歩でも二歩でも』(2015年)などがある。

アルト・ヨアヒム

新潟大学経済科学部助教。日本のアニメーション作品における第二次世界大戦の表象と集合的記憶について研究している。論文に「戦争アニメと反戦メッセージとしてのトラウマ」(所収『戦いとトラウマ』のアニメ表象史:「アトム」から「まどか☆マギカ」以後へ』日本評論社、2023年)などがある。

木村智哉(司会・進行)

開志専門職大学アニメ・マンガ学部准教授。アニメーションを中心としたメディア産業史を研究している。単著に『東映動画史論 経営と創造の底流』、また論文に「戦時下映画業界の統制とアニメーション:文化映画会社統合と軍委嘱映画」(所収『戦争と日本アニメ:『桃太郎 海の神兵』とは何だったのか』青弓社、2022年)などがある。

■新潟視覚芸術研究所(RIVNA)とは

新潟視覚芸術研究所=Research Institute of Visual and Narrative Arts, Niigata(RIVNA、リヴィナ)とは、現代視覚芸術領域に関する多彩な研究の推進およびその成果発信を行うことを目的として、開志専門職大学内に設立された機関です。アニメーションやマンガをはじめとした各種の視覚芸術表現に関する研究イベントなどを開催しています。